

稲武地区伝統文化

小田木人形座公演と

映画「時の絲ぐるま」上映会

次世代へ

秋の農村舞台を背景に、稲武地区の伝統である小田木人形座と養蚕文化が共演します。
地域の歴史と誇りを次世代へ受け継ぐ、美しい系譜をぜひご覧ください。

の 擧

たすき

2024

10/14

月・祝

13:00—16:15 (12:30開場)

会場:小田木農村舞台(豊田市小田木町シッタキ)

※雨天時は稲武交流館(多目的ホール)にて開催します

入場無料

事前予約制

先着120名

当日「小田木人形座」への支援金にご協力をお願いいたします
(一口500円から)

お申込みはコチラ

稲武支所 養蚕担当 0565-82-2511

申込み受付開始/8月26日(月)9:00~



[主催] 小田木人形座、稲武地区養蚕・製糸文化伝承事業実行委員会

[後援] 豊田市



小田木人形座の起源は1752年頃(推定)。

名古屋市と長野県飯田市を結ぶ「飯田街道」のほぼ中間に位置する小さな宿場町だった小田木町は、今も人形浄瑠璃文化が根付く飯田の影響を受けており、共通点が多い。全国的な飢饉に見舞われた1875年に途絶え、その後138年もの間興行されなかった。そして2013年、小田木人形浄瑠璃を復活しようと有志が集まり古い文献や全国各地の人形座の協力を頼りに2016年に「小田木人形座」を設立。2022年には農村舞台アートプロジェクトの一環として「小田木人形座旗揚げ公演」を開催。新しい演目の稽古に励むなど、現在も進化を続けている。

当日の演目

さんばそう
三番叟

起源は平安時代で、五穀豊穡、天下泰平、子孫 繁栄を願うお祝いのおめでたい舞。この三番叟は淡路から伝わった芸や型を伝え、「手」と呼ばれる古風な型を遺すと言われている。

けいせいあわ なんと
傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段

阿波藩(徳島県)のお家騒動を題材にした物語。「巡礼歌の段」中で巡礼娘お鶴が語る「ととさんの名は十郎兵衛、かかさんはお弓と申します」の台詞が知られる。

時の 糸 ぐるま

..TOKI NO ITO GURUMA..



天皇即位の際の祭祀、大嘗祭(だいじょうさい)に欠かせない2つの織物、徳島県の麻織物・麁服(あらたえ)と愛知県の絹織物・繪服(にぎたえ)。
なぜ代々その地から宮中へ調進されるのか。麻・絹とは何か。神さまとは。それぞれを取り巻く現在の姿を追い、歴史を紐解き、伝統、ものづくり、お米、感謝の心など、失われつつある日本人のアイデンティティを美しい映像で映し出す。



監督
地球写真家
石井 友規

岡崎市出身。大阪芸術大学在学中にキャノンギャラリー銀座、梅田で個展を開催し写真家デビュー。アニミズムをテーマに作品を制作し、映画「時の糸ぐるま」を発表する。制作の傍ら徳島県環境アドバイザーとして子供たちへ出前授業を行うことをライフワークにしている。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。

小田木人形座公演と映画「時の糸ぐるま」上映会

日時 2024年10月14日(月・祝) 13:00~16:15(12:30開場)

スケジュール 12:30 開場
13:00 あいさつ
13:15 小田木人形座「三番叟」「傾城阿波の鳴門」公演
14:15 映画「時の糸ぐるま」上映会(約2時間)
16:15 終了

会場 小田木農村舞台
※雨天時は稲武交流館(多目的ホール)にて開催します

入場料 無料 当日「小田木人形座」への支援金にご協力をお願いいたします(一口500円から)

問合せ・申込み 稲武支所 養蚕担当 0565-82-2511

お申込みはコチラ



会場および駐車場のご案内



小田木農村舞台(豊田市小田木町シッタキ)